

自由われらの園

国府高校100周年

国府高校（豊川市）の正門から中庭の奥へと進むと、ひょうたんの形をした池がある。同校によると、現在の池は三代目で、二〇〇〇（平成十二）年の創立八十周年を機に一新された。今年夏には百周年記念事業として、正門や池へと続く中庭が整備されている。

天気の良い日は、ひょうたん池のほとりて弁当を広げる生徒たちの姿も。すぐそばの購買に立つ卒業生の佐竹典子さん（六巴）は「池の周りは生徒たちがホッとひと息つける場所になっている」と話す。

購買は池の前に立つ「光風会館」一階にあり、同窓会が運営している。歴史は古く、一九五三（昭和二十八）年に校舎の一角にできた。当時の国府高校新聞によれば、利益を会館建設の資金に充てるためだったといい、記事では「先輩に対して絶大な協力を」と利用を呼び掛けている。

現在、購買に立っている

見せる生徒もいる。三年生の平出陸さん（も）は「学校のお母さんの存在。生徒の名前や部活を覚えて応援してくれる。ふと立ち寄りたくくなります」と卒業生との会話を楽しむ。

常連の生徒が見せる表情の変化には敏感だ。「いつも元氣な子が下を向いていると気になって、『何かあった？』と声を掛けてしま

「国府高に赴任して『こんなに充実した購買は初めて』と驚く先生方も多い」と佐竹さん。生徒のニーズに応じて品数を増やし、安価で提供してきた。校内で模試がある土日も店を開けるようにしている。

昼休みの時間は、人気の「たけのこパン」や新作の「フルーツサンド」など目当ての品を買い求める生徒でにぎわう。ふらっと姿を



現代編①

ひょうたん池

生徒の憩いの場となっている「ひょうたん池」のほとり。右の建物が光風会館。いずれも豊川市の国府高で

生徒がひと息つける場



生徒たちで混み合う光風会館内の購買

う」と佐竹さん。卒業生が「受験勉強や部活動に頑張っている生徒たちに、少しでも笑顔で学校生活を送ってもらえたら」と、ひょうたん池のほとりて後輩たちを見守り続けている。（この連載は川合道子が担当します）